

チーム学校からチームぬぬぎ(地域)の学校へ 「参画 協働 共汗 共創」の地域学校協働活動 ～地域とともにつくる「ふるさと学ぬぬぎ」の取組～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内小学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
丹波市立 南小学校	南小学校学校運営協議会 平成31年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 1名 1名 地域コーディネーター 1名 1名	たんばふるさと学



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

平成31年、学校と地域が真に必要な協働活動について熟議を開催し、3つの部会編成の学校運営協議会を発足。学校での教育“学びづくり”、次世代に繋ぐ地域“地域づくり”、人々の学び合い“人づくり”の3つの“つくり”を持続可能なもの(つながりづくり)にするため皆で知恵を出し合い活動している。学校・家庭・地域の目標・ビジョン共有、役割分担の明確化・適正化・働き方改革を図り、目標協働達成に向け主体的に取り組む連携を強めると共にPDCAサイクルによる検証改善を実施している。

目標や目指す姿(学校)

学校の将来ビジョン
「この学校で学びたい・学ばせたい『ときめく南小』」

目標や目指す姿(地域)

地域の将来ビジョン「ここで住みたい『きらめく沼貫』」



南小学校学校運営協議会 の特徴

委員の立場や属性等

- 地域学校協働活動推進員(市社会教育委員)
- 学校支援コーディネーター(元学校長)
- 自治会関係者
- 子ども見守りボランティア
- PTA関係者
- こども園関係者
- 地域イングリッシュ・ボランティア など、計 **14** 名で構成
- 民生児童委員 年間平均 **3** 回程度開催

効果的な運営の工夫

「参画・協働・共汗・共創」して共に地域学校協働活動に取り組む委員をコアメンバー(会長、校長、推進員、コーディネーター)として選出し、会議の協議内容もコアメンバーで検討するなど、コアメンバーを中心に、委員の入れ替わりがあっても持続可能な体制づくりをしている。
また、定例の会議を3回以上増やさず、代わりにオフミーティング(6回程度)を推進員を中心に企画しメール案内等で周知するなど、「積み上げる」ではなく、今できることを、できる人が、できるときに楽しく活動することを全委員で共通理解して取り組んでいる。



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

課題からはじめる3つの部会(見守り、学び、交流)を設置し、学びの応援、地域との交流等のテーマに沿って協議している。交流部会では教育課程に位置づけた「ふるさと学ぬぬぎ」の取組として、地域と連携した学習を協議している。生活科や社会科等の授業では地域の防災学習を取り入れ授業実施を協議した。



コムスクオフ会

地域学校協働活動

地域連携による防災の取組として、1年生の生活科「川遊びから始まる防災教育」や社会科の授業で、地域防災の団体にゲストティーチャーとして参画してもらった取組を進めた。地域学校協働活動推進員等が学習計画づくりから参画し、地域団体が参画する授業を実施した。



地域防災と社会科学習

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

南小コムスクでは、学校と地域が呼応する将来ビジョンを掲げ、共有し、学校運営と地域の施策に明確に位置付けるとともに、地域学校協働活動推進員の役割を明確にしている。地域学校協働活動推進員が学校運営協議会の委員となって協議を行い、その内容に応じてオフミーティングで企画を出している。さらに、教員と共に、学習計画づくりに参画し、地域防災に関わる地域の取組を授業に取り入れる役割を果たしている。このことにより、学校運営協議会と地域学校協働活動が一体的に進んでいる。

取組

成果・効果

学校運営協議会では、学校と地域が将来ビジョンを共有し、協議を行っている。その際、委員の中から選出されたコアメンバーが、不規則の短時間での打ち合わせを繰り返すことで、学校と委員とが密に連携し、学校・地域それぞれの意見を十分に反映した取組を推進することができている。教育課程に位置づけた、地域と連携した取組は、「ふるさと学ぬぬぎ」として、生活科、総合的な学習の時間、社会科、国語科等の授業で実施できている。これらの活動に取り組んだ、学校及び地域の方からは、以下のとおり成果の声を得ている。

【学校】

- 学校と地域がお願いする、される関係から相談しあえる関係に変わった。
- 地域資源(ひと・もの・こと)を生かして、教育課程に位置付けた活動ができ、気軽に地域の方に相談できるようになった。
- 教職員以外の人脈が増え、ボランティア活動が活性化し、子どもの学びや育ちに広がりが見いだせている。
- 学校評価アンケートで、「地域のことを学ぶのは楽しい。」「学校は、地域の教材や人材を生かした学習を進めていて評価できる。」と回答した児童・保護者が9割を超え、地域とともにある学校づくりが浸透している。

【地域】

- ボランティア意識から参画意識への転換ができている。無理せず、自分のできる活動範囲で意識が生まれてきている。
- 南小は地域の方がふらっと入りやすくなっていて、誰でも関われるチャンスになってきている。